

いずれ、をいま、に。



製品開発の考え方と技術 web掲載記事のご紹介

国産初の生化学自動分析装置の誕生から50周年。私たちの製品開発は、変動するグローバル環境の中で揺れ動いてきました。その間、価値基準が大きく変動し、製品開発が激化していた業界において紆余曲折も経験しました。

それでも日立は、過去50年間、体外診断検査の分野で一貫して先駆者で有り続けます。日本で初めて生化学自動分析装置400形を開発し、80年代以降は、ターンテーブルディスクリット方式の705形を開発し、グローバルトップに躍進。それ以降も大型分析装置のモジュール方式、高感度免疫測定装置のECL方式、免疫検査と生化学検査を融合したハイブリッド方式を開発して、臨床検査室の効率化、高いデータ品質・信頼性向上に貢献してきました。日立の設計者は、これら製品開発を進める上での重要な基本を、1.データ精度の確保、2.測定項目の拡充、それを実現するための3.測定技術の開発、4.データの標準化と捉えてきました。

特設サイト「いずれ、をいま、に。」のChronicleコーナーでは、「臨床検査の基礎知識」と題して日立が開発した技術のおさらいを、また「コア技術」では、具体的な技術・分析装置・測定項目を含めた臨床検査の自動化の変遷に沿い、日立ハイテクが一貫して進めてきた製品開発の考え方と技術との関係を紐解いていきます。

臨床検査の基礎知識 Precisionについて

「運用の壁と分析の壁」>>https://www.hitachi-hightech.com/jp/be_bold/chronicle/001/



コア技術 はじめに

「壁があるから乗り越える」>>https://www.hitachi-hightech.com/jp/be_bold/chronicle/003/



AUTOMATIC
CLINICAL
ANALYZER



ライフ&メディカルシステム 特設サイト

「いずれ、をいま、に。」 https://www.hitachi-hightech.com/jp/be_bold/

